

# シリーズ 中学校武道

## 授業の充実に向けて②

### 弓道授業の実践報告と必修化の課題



岩手県奥州市立水沢中学校 教諭  
高橋 崇子

中学校保健体育の武道必修化に向けて、本校では平成21年度から弓道の授業を取り入れることにした。実施するにあたり、環境整備、地域の指導者（外部指導員）の要請、弓具の準備、40人という生徒を指導できるのかなど多くの壁が立ちはだかった。しかし、全日本弓道連盟中学校武道必修化対策特別委員の先生方をはじめ、岩手県弓道連盟所属の水沢弓道会、本校職員など多くの方々からのご支援をいただき、これらの問題を解決することができた。本校において、弓道の授業は初めてということもあり、学習規律が比較的定着している3年生で実践した。今後の展望も含めて紹介したい。

#### はじめに

##### (1) 弓道の授業を行うことになった経緯

私が初めて弓道の授業を行ったのは、前任校である岩手県奥州市立東水沢中学校であった。学校のすぐ隣には市営の弓道場が設置されているという絶好の環境にあり、私自身、弓道経験がある（四段）ことに加え、水沢弓道会の先生のご支援をいただくことができ、授業の実施が実現した。この時は、選択授業ということで約20名ほどの生徒を男女共習という形で、週1回、年間約20時間の授業を行った。

はじめは道場がなければ弓道の授業は成立しないと考えていたが、平成19年度に教員研修センター主催の子どもの体力向上指導者養成研修（弓道）に参加し、さまざまな指導法や授業のあり方について学び、道場とい

う梓にとらわれず、授業を工夫改善する可能性を見出すことができた。この年に現在勤務する中学校へ転勤したのだが、前任校のように弓道場が近くになかったものの、弓具や環境を整えればいつかは授業で弓道を教えることができるかも知れないと考えた。

平成20年12月、全日本弓道連盟武道必修化対策委員の高橋良子先生から「授業を実践してみないか」というお話をいただいたこともあり、学校長の許可を得て実施の方向で計画を進めることになった。

##### (2) 環境整備について

環境整備については、次の5つの取組みを行った。

① 授業を実施する場所  
本校には第1体育館（バスケットボールコート2面ほどの広さ）と第2体育館（剣道場、柔道場それぞれ1面とれる広さ）がある。生徒の安全確保のために、より広い第1体育館で実施



##### ② 安土

第2体育館に置いてある古畳を使用した。授業前の空き時間を使って、体育館の壁に均等に並べた。

##### ③ 弓具

当初、水沢弓道会や県弓道連盟から借用する予定であったが、全日本弓道連盟より奥州市に弓具が寄贈されることになった。昨年8月31日、市役所で贈呈式



資料1 指導計画と評価計画（3年生、10時間扱い）

時間	ねらい・学習活動	学習活動における具体的評価規準	
		運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断
学習Ⅰ 1時間	・オリエンテーション ・単元の目標を知る。 ・行射を見る。 ・弓道の歴史や特性を知る。 ・弓道場や用具の名称及び使用方法 ・所作 ・これからの練習方法 ・これからの練習順序 ・服装について	①弓道の特性に関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように進んで学習しようとする。 (◎新たに習う動作や用具に関心を持ち、進んで質問したり、練習しようとする。)	
学習Ⅱ 3時間	ねらい① 「行射方法の習得」 ～射法八節を中心とした練習～ ・ゴム弓を使用した練習 ～基本の動作練習～ ・立射の動作を確認する ・弓を持つての練習 (教弓の姿勢・的前の動作) ・素引き練習 ～弓を使っての練習～ ・張のつけ方 ・矢の持ち方 ・矢の番え方 ・取り懸けの仕方 ・離れの分習 ☆安全確認をしっかりと行う	①弓道の特性に関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように進んで学習しようとする。 (◎新たに習う動作や用具に関心を持ち、進んで質問したり、練習しようとする。)  ④用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、練習する上での安全に留意して取り組もうとする。 (◎矢尻を人に向けない、行射中の人に話しかけないなどの注意点を守ろうとする。)	実践の際、矢番え指導に時間がかかったため、細案で1時間プラスして計画。  ②学んだ所作を活かし、場に応じた行動ができる。 (◎挨拶を礼儀正しく行っている。)
学習Ⅲ 4時間	ねらい② 「習得した技能の段階に応じた練習」 ～段階1～ 的距離(5～6m)から80cmの的をねらう。 ～段階2～ 的距離(10m)から80cmの的をねらう。 ～段階3～ 的距離(10m)から近的用(36cm)の的をねらう。  課題学習 「立射の基本動作練習」 「射法八節の素引き練習」	②礼儀を重んじて練習に取り組むとともに、仲間と協力して技能の向上に努めている。 (◎技能面の練習だけではなく一つ一つの動作を大切に、仲間とともに練習に取り組もうとする。)  ④用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、練習や試合をする上での安全に留意して取り組もうとする。 (◎矢の取りの際の、安全確認をしっかりと行っている。)	①資料や師範の動作、学んだことをもとに互いの修正点を指摘し合っている。 (◎良いイメージを持って、仲間の行射との違いを指摘している。) ②学んだ所作を活かし、場に応じた行動ができる。 (◎仲間の行射をきちんとした姿勢で見学する。)  的からの距離は7・8mくらいまでしか伸ばせなかった。
まとめ 2時間	・簡略化した方法での競技会の実施  ・まとめと反省を行う	③勝敗や結果を素直に受け入れようとする。 (◎勝敗や結果にこだわらず、仲間を尊重しながら正々堂々と競技に臨もうとする。) ④用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、試合をする上での安全に留意して取り組もうとする。(◎各自の責任において用具の点検を行っている。)	②学んだ所作を活かし、場に応じた行動ができる。 (◎仲間の行射をきちんとした姿勢で見学している。行射の入退場がしっかりとできる。)

◎で表した部分は「十分満足できる」状況と判断する際の手がかりである。

学習活動における具体的評価規準		評価方法等
運動の技能	運動についての思考・判断	
	①弓道の特性や歴史を知り我が国の伝統武道であることを知っている。 (◎弓を使うことは、かつては戦闘の一手段であったが、心身鍛錬、精神修養の武道として継承されていることを説明できる。)	関心・意欲・態度 (観察及び学習ノート) ①新しく習う用語や動きについて進んで質問する。 ②技能を高める練習の場面で、作法をおろそかにせず、一つ一つの動作をしっかりと行っている。 ③試合の結果を正しく記録している。 ④安全確認をして、練習に取り組んでいる。
①射法八節に従い、正しい型で弓を引くことができる。 (◎一連の流れにそって弓を引くことができる。)	②射法八節、施設や器具などの用語を理解している。 (◎練習における指導者の使う用語の意味が理解できる。)	思考・判断 (グループ活動の観察及び学習ノート) ①資料や師範の動作、学んだことをもとに互いの修正点を指摘しあうことができる。 ②学んだ所作を活かし、場に応じた行動ができる。
②定められた作法により射法八節を中心とした射法の技能が習得できる。 (◎一つ一つの動作を流れて行うことができる。)	②射法八節、施設や器具などの用語を理解している。 (◎練習における指導者の助言の意味が理解できる。)	技能 (動きの観察) ①射法八節の動きがなめらかにできる。大三をしっかりとっている。 ②弓の力を生かすために射法八節を正確に行っている。 ③競技会において正しい作法を用いて、自己の技能を發揮している。
③定められた作法により、技能をいかした試合ができる。 (◎習得した技能を十分に發揮している。)	③競技の実施方法を理解している。	知識・理解 (ノート・評価問題) ①弓を使うことは、かつては戦闘の一手段であったが、心身鍛錬・精神修養の武道として継承されていることを説明できる。 ②練習中における助言の内容を理解できている。 ③競技の実施方法を理解している。

旧指導要領の評価観点である。なお、波線部分は反省内容である。

が行われた。弓具の保管場所は本校になった。  
寄贈された弓具は、弓20張、矢100本、楯40具、胸当て40枚、下がけ100枚、79cm色の20枚、「少年弓道」(アリス館刊)10冊であった。

④外部指導員への依頼  
岩手県中学校武道必修化対策委員である水沢弓道会の菅草夫先生(錬士五段)が指導員のとまりまとめを行ってくださった。指導員は主に弓道経験のある教員OB・OGにお願いした。

生徒8人に対して1人の指導員がつくことができるように調整を図り、事前に打合せを行った上で授業に臨む体制をとった。⑤学校のバックアップ体制  
弓道の授業を行うにあたり、弓具の保管場所の確保と管理、

地域指導員の受け入れ体制、弓立てや矢立ての製作(用務員さんの手作り)など、充実した授業に向けての組織的な協力を得ることができた。また、授業の記録やその成果を披露する場面(文化祭発表)も設けることができた。

こうして、多くの協力を得て弓道授業を実現することができた。弓道授業では、その効果を十分に發揮するためにも、また、より安全に実施できるようにするために学校全体でこのような環境整備を行っていくことが必要である。

## 2 弓道授業の実践

(1) 授業計画について  
本校で初めて行う授業であることから、心身ともにある程度成長しており、学習規律も定着

している3年生で行うことにした。また、外部指導員にお願いしながら授業を進めなければならぬという面から、まずは無理のない時数に設定してみようと考え、10時間の扱いとした。指導計画と評価計画は資料1のとおりである。  
授業の生徒数はA・B組38名、C組19名、D・E組39名であった。弓具の数と、授業場所の広さ、指導者の数は十分に確保することができた。しかし、弓具の管理や準備片付け指導などが計画的に指導されないと、さまざまな混乱が起こり、授業に支障が出てしまうと考えたため、まずは弓具の管理計画を立てた。  
(2) 弓具の管理、安土の準備と片付け  
まず、弓具用のかごを用意し、4人グループごとに楯・胸当て・ゴム弓などを入れ、毎回かごに戻させた。弓具にはすべて番号を入れ、各自の使用番号を覚えさせ、毎回同じ物を使わせ

た。

弓は、2人で1張とし、番号を覚え、毎回同じものを使わせる。また、矢は2種類の長さ(95cm、100cm)を用意した。色で違いが分かるようにし、身長に合わせて長さを決めさせ、毎回同じ長さのものを使わせた。そして、グループで用具係を決めた。



専用のかごを用意し、弓具を管理した

させ、準備・片付けの際に確認をさせた。中仕掛けや碟にぎり粉(滑り止めの粉)をつけるなどの下準備は、外部指導員とともに行なった。

安土(畳)と的つけの準備、片付けについては、当番を決め素早く設置させた。重い畳であるが、協力して安全に運ぶことができた。また、外部指導員の先生方も準備時間から生徒について安全指導をしてくださった。こうした準備活動を、授業開始から5分以内に終わらせることができるようにした。道具を使う授業は、準備がすべてである。授業の充実を図るためには、この準備を怠ることはできない。道場があればまた違うだろうが、体育館で行うため、この準備に力を入れた。

(3) 各1時間ごとの授業の流れ  
各1時間ごとの授業の流れは、次のとおり。  
①準備(生徒たちの分担により行う)

▽畳並べ: 的1つに畳3枚を体育館の壁に置く。全部で15枚用意する。

▽弓具準備: 弓具を保管している場所からすべて運んでくる(安全面を考慮して矢は職員室に保管し、教師が運ぶ)。

▽その他: 体育ファイル(記録用紙をはさむ)、筆記用具、下掛けを個々に持参する。

②集合・整列・挨拶(座礼)

③準備運動  
教科リーダー(本校では各教科において、教師の伝令役などをする生徒のリーダーをクラスで2名程度選んでいる)の指示で動く。授業の進度に沿って、射法八節・ゴム弓などの練習を含む。

④課題把握  
1時間ごとの課題を提示する。

⑤主となる学習内容  
計画に沿って、その時間ごとの内容を実施する。

⑥整理運動

⑦振り返り  
記録ノートを活用する。グループごとに話し合い、授業を振り返る。

⑧次時の予告  
⑨挨拶(座礼)  
⑩片付け

(4) 全体計画・評価について  
①指導計画について

「ねらい②」の学習「10m先のをねらう」までは、10時間では厳しかった。単独クラスのC組19名に指導者3名がついた場合は、他クラスに比べ順調に授業も進んでいった。しかし、距離を伸ばすには至らなかった。こうしたことから、無理をせず13時間くらいで「5〜7m先のをねらう」のが適切であると感じた。今年度には必修化を見据えて、1・2年生の授業に取り組み予定であるため、今回の結果をもとに検討したい。  
具体的に改善したい点は4時間目の「弓を使った練習」である。碟の付け方や矢番えなど、時間がかかる内容が多いため、あと1時間追加したい。

「正しい取り懸け動作と離れ」については、つまづきやすいところだけに丁寧に時間をかけて指導したい。今回取り入れていなかった離れの分習を入れるのがよいと考える。

②評価について

評価計画に沿って、生徒の学びを見取るよう努めた。的について個別指導しているとき、初めは技能状況について担当の生徒しか見ることができなかった。しかし、毎時間担当グループを外部指導員とローテーションさせて、全員を見ることができるよう工夫した。また、最後の競技会では、ある程度一人で引けるようになっていたため、外部指導員に補助していただき、教師は一人一人の行射を見ることに努めた。

学習カードの活用については、授業時間内にすべて記入させることが難しかったので、単元末にまとめて評価するという形をとった。これらのことから、全体計画を見直し、余裕をもった

授業細案を考える必要があると感じた。また、今後は評価の観点も新学習指導要領に合った内容に変更していかなくてはならないと考える。

(5) 安全指導について

安全指導については、行動の仕方と場の設定の仕方の2面からとらえた。

①行動の仕方

・指導者の指示をよく聞く  
・用具を正しく使う  
・道具を持って練習するときは、間隔を大きくとる(2m以上)  
・矢取りの際は必ず声をかける  
・畳から矢を抜く際は、必ず後ろに人がいないか確かめる。  
・的に立たないときは、安全ラインより前(的側)に入らない

・服装は体に合った大きさのものを着る。髪はゴムでまとめない。  
・ピン留めは使用しない。  
・行射している人のそばにいかない  
・矢先を人に向けない



取り懸け動作はつまづきやすいところだけに、丁寧に時間をかけて指導したい

②場の設定の仕方

行動面での指導を行った上で、広い体育館を利用し、立ち入り禁止区域を作った。具体的には的に立つ人と次の立ちを待つ人(イスを用意し座って待つ)

以外には体育館のセンターラインを超えてはいけないということにした。それにより、弓を持たずにグループ練習を行う生徒が近辺で混雑しない状況を作った。

# 空手が強くなりたいたいの

# 55のルール

これが上達への  
キーポイントだ!



疑問に思ったら  
これを読め!!!

好評発売中!  
専門家じゃなきゃわからない高度な疑問から、今さら他人には聞けない素朴な疑問まで、55のキーポイントにズバリ解答!

月刊「空手道」編集部・編  
定価：本体1500円＋税 ●B6変型 ●248ページ

株式会社 福昌堂  
東京都世田谷区北烏山3-8-15  
TEL 03-3326-5039  
http://fukushodo.com/

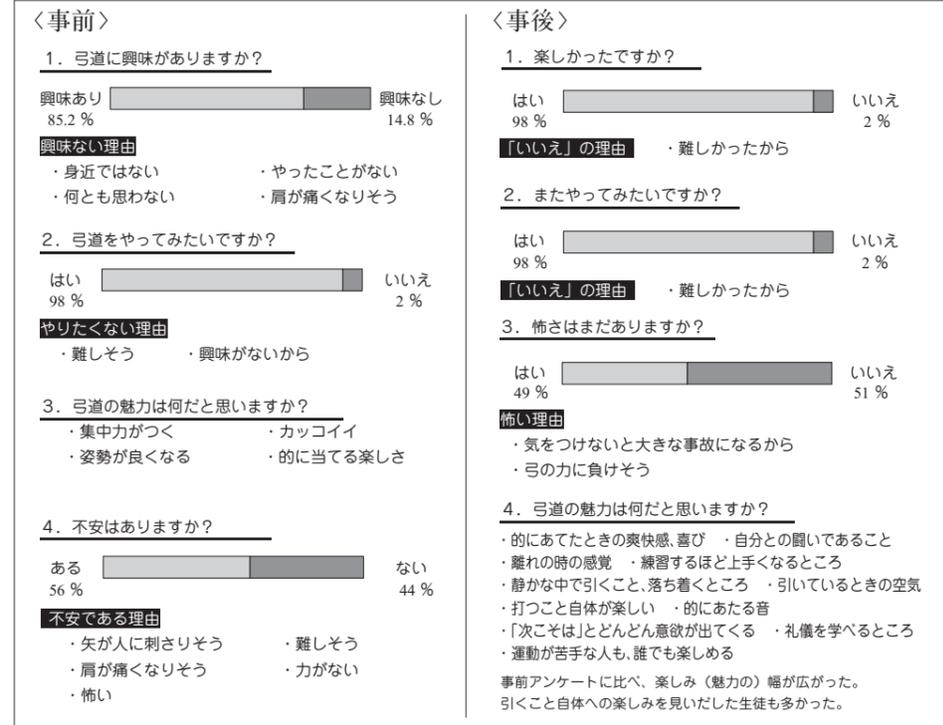
ある。動的ではないが、常に心を体の中心に置いて動くことで体の軸を作ることができる。また、自分の動作を意識し修正していこうとすることで、体の使い方、調整する力が高まる。どのスポーツにも通用する体の中心を意識する感覚や、体幹を鍛えることができる。考える。

武道授業のねらいとしては、「武道の伝統的な考え方を理解する。相手を尊重する。禁じ手を使わない」などがあげられる。弓道は他の武道と異なり、相手が分的（いわば自分）である。自分との闘いであることから、集中力を高め、克己心を養うことができる。また、その集中力を保つために、互いの行動に気を配り、練習の場（空気）を作ることで、仲間を尊重する態度を養うことができる。弓道は、その特性を理解し、きちんと守りさえすれば、安全に授業を進めることができる武道である。また、そのまわりを守ることで、日常生活でも安全に気を配ることができるようになる。

実際に授業を行ってみると、自分が考えていた以上の、多様な効果があることが分かった。そして、事前・事後のアンケート結果では、弓道の魅力のところが多様化していることも知ることができた。生徒一人ひとりが体験した中で培ってきた心の変容が分かる。

また、弓道への不安・恐怖心は、7ポイント減少したのみであったが、同じ生徒が恐怖心を抱いているというわけではなく、弓道を学ぶことによってその怖さを感じた生徒もいたようである。その理由として、「気をつけないと大きな事故につながるから」「弓の力に負けそう」などがあげられた。これは、安全面に対する慎重な心構えからくるもの

## 資料2 事前、事後アンケート



### 3 事前・事後のアンケート結果より

(1) 導入時の興味づけ  
事前のアンケートでは、弓道への興味・関心が高いことが分

(2) 弓道のもたらす効果  
子どもの体力低下が騒がれる中、動きの少ない弓道でどのような体力が高まるのかという疑問があげられるかと思う。弓道は「実際に弓を引くための射法八節」と「行射に入るための基本の姿勢・動作」が主な動きで

という気持ちを込めて一礼をして入って行くこと、履き物をそろえて置くことを指導した。また、正座はするべき時の判断基準をはじめに与え、各自の判断に基づいて行動させるようにした（身体的理由がある生徒は無理をさせない）。正座をする場面としては、礮の着脱の時、仲間の行射を見学するときが望ましいと考える。それにより、道具や仲間を大切にすることを姿勢で表すことにつながる。

かつた（資料2）。その興味・関心をさらに深める手段として次の3点の指導を行った。

① 実際の行射を見せる。静寂の中に響く弦音的を射抜く音、射手の気迫などを肌で感じるることができる。

② 早い段階で弓具に実際に触れさせて、「引いてみたい」という意欲を高める（安全指導をし、指導者の安全管理のもとで）。

③ 歴史や特性に触れ、生徒の知的好奇心を引き出す（「筈」「掛け（懸け）替えのない」といった弓から発生した言葉を紹介するなど、他教科の内容とからめて話すのも有効）。

(6) 基本の姿勢・動作  
1時間目に立ち方、座り方、立礼、揖、座礼の意味と動きを指導した。また、体育館であっても稽古場（道場）であるという意識を持ち「お願いします」

想を手にした。そして、弓道の授業により、①「弓道自体が持つ楽しさ」、②「弓道を通じての学び」、③「日常生活とのかかわり」の3つの効果に気づいた。さらに、外部指導員の協力を得たことで地域とのつながりが深まった。また、学習の成果を発表する機会が設けられ、地域に授業の成果を発信することができた。生徒にとっても、緊張を克服し、的と向き合う体験を持つことで、大きな自信が得られた。

## 4 必修化への課題

(1) 場所、道具の必要性  
前任校で選択授業(弓道)を行った際、道場は必要不可欠と想っていた。しかし、今回の経験を通じて、授業では的までそれほど長い距離を必要としないことが分かり、場所は体育館で

も十分であると感じた。生徒数に応じて道場と体育館を使いわけるのもよいが、道場だと天候に左右されるため、外部指導員を招いての授業では調整が困難であることも考えられる。ただし、道場の持つ特有の空気を味わわせることも大切な要素であると思うので、道場を持たない学校であれば授業の最後に地域の道場で引かせるなどの工夫をするとよいであろう。

弓具については、身につけるもの(襖・胸当てなど)は1人に1つずつ、弓・ゴム弓などは2人に1つ欲しい。さらに、襖は着脱に時間を要するため簡単にできるような工夫が欲しい。中学生であれば柔らかい帽の襖が望ましい。実際の授業では、矢こぼれや暴発がなく、安全に行射することができた。

弓具が足りない場合は、弓道関係者に相談し、借用手続きなどを確認して、必要数をそろえるなどの準備が必要である。

で取り組んで欲しいと考える。そして、日々鍛錬していけば、授業で味わった楽しさ、またはそれ以上の楽しさを味わうことができると思う。そうしたきっかけになるような授業作りをしていきたい。

### (5) 今後、必修化に向けて取り組むべきこと

何と云っても、指導者の充実が重要である。保健体育教員を対象とした弓道講習会を充実させることや外部指導員の確保が必要であると考えられる。特に弓道は経験者が少なく、実際に教えるのが難しいことから、必修化に向けて弓道を行う学校を拡大していくため、これらの対応が急務である。

本校には自分以外に2名の保健体育教諭がいるが、この教諭とともに弓道授業を行い、弓道経験がなくても外部指導員と協力して授業を進めるができるようにするなどの伝達をしていきたいと考えている。そうするこ

### (2) 外部指導員導入にあたっての留意点

私の場合、外部指導員の先生方なくしては授業の成立はあり得ない状況であった。したがって、指導にあたる際の連携、事前の打ち合わせは欠かせないと考えていたが、学級経営、部活動など、じっくりと打ち合わせる時間を持っていない現状があり、外部指導員の先生方にはご迷惑をかけてしまった。

導入にあたっての留意点としては具体的に左記の2点を紹介したい。

① 学校の日課表と授業日程を水沢弓道会に連絡し、指導員の調整を図っていた。そして、授業開始前に指導員と教師とで打ち合わせを行い、方向性を確認する。

② 弓道は専門用語が多く、しかも流派によって基本動作の違いがある。用語・基本動作・射法八節に関わる動きについては生徒に伝える内容の調整を確実に行う。

### (3) 男女共習の課題

弓道は、個人の体格・体力に合った道具を使用することで誰にでも行える武道である。そのため、男女共習も充分に実施可能である。学校の実態に合わせて、共習させるとよいであろう。本校では、1年生の体育は男女共習である。その流れで男女共習の弓道を行うことも可能である。また、2・3年生は男女別に体育授業を行っているが、武道の時間だけ、男女共習とし「柔道」「弓道」から選択させることもできるだろう。

本年度は自分が受け持つ2年生女子に20時間行う予定である。また、3年生の選択授業を受け持つことになるので、男女共習で生徒を募る予定でいる。

### (4) どのような授業作りを目指すとしたらよいか

私は高校・大学と弓道部に所属し練習に取り組んできたが、部活動の感覚で授業を行うことはできない。射法八節や所作、



指導者として弓道をより深く学び、授業で取り扱う内容を精選していくことが大切である。  
(写真は筆者も講師として参加した平成21年度中学校武道授業指導法研究事業 [主催・日本武道館、全日本弓道連盟])

とで、公立学校においても、教師の人事異動に左右されず弓道授業の定着を図ることができると思われる。

## 5 おわりに

今回の経験を通して、弓道の授業は他の単元に比べて準備や指導にかなりの手間はかかるが、その分を差し引いたとしても授業を実践する価値は十分にあると実感した。

今後、弓道授業を普及させていくには、先に述べたように教師一人で授業を成立させることは難しいという課題が残る。しかし、小規模校など少人数で授業を行っている学校においては、環境を整えば教師一人であつても授業を成立させることができると考える。つまり生徒数に応じて対応できる指導者の数が変わればよいということである。

また、襪を着脱しやすいものにするなど、弓具の改良を図ることとさらに授業が進めやすくなることも考える。もちろん、理想は普段行っている授業と同様に弓道の授業を実践できることであるが、授業の進め方、弓具の改良などで、より実践しやすい授業作りを推進していきたい。

岩手県では、今年度から体育に弓道を導入する学校が2校あると聞いている。また、私が所属する奥州市教育研究会体育部会においても、弓道の楽しさを味わっていただけけるよう、8月の研修会で弓道を紹介することにした。弓道の持つ教育効果を理解していただき、平成24年度の武道必修化に向けて授業に取り入れる学校が増えることを期待したい。

今回の授業実践にあたっては、多くの方々の支えにより授業を成立させることができた。ご支援くださったすべての方々に感謝したい。

### 快適で安全な都市空間の創造をめざす …東洋実業グループ

- ビルディング・トータル・マネジメント
- 清掃等建築物の環境衛生管理
- 空調、電気、水系統等諸設備の運用、管理
- 警備、保安、駐車場管理
- 原子力セキュリティ及び施設メンテナンス
- 工場、ダム等のセキュリティ
- 案内、受付他料金徴集業務
- 公園等のグリーンメンテナンス
- ビルメンテナンス用ソフトの開発販売
- バイオ研究開発
- その他建築物の運用、管理に係る一切の業務



株式会社 東洋実業

代表取締役 横田 正弘

札幌 本社 / 札幌市中央区北六条西22丁目250番14東実ビル TEL(011)612-1911(代)

東京 本社 / 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号新宿野村ビル TEL(03)3345-0531

営業 所 / 函館・室蘭・苫小牧・千歳・恵庭・小樽・余市・岩内・石狩・岩見沢・旭川  
士別・富良野・占冠・帯広・北見・釧路・日高・遠別・深川・埼玉

海外 事業 / 株式会社東洋実業マレーシア / 東洋実業シンガポール PTE. LTD. / 東洋  
セキュリティ&ビルディング・マネジメント (香港) LTD./